



**2008年度  
活動報告**



# 国立看護大学校 Faculty Development(FD)活動報告

## 2008年4月～2009年3月

本学での教育の質の向上および改善を目指して、2008年度は、以下のとおり15回のFD研修会を開催した。

学外講師による講演	2
学内講師による研修	4
自主グループでの研修	1
ランチョン・ミーティング	8
計	15

### I. 学外講師による講演

#### 1. 「タイ王国における看護師資格と看護教育」(2008年6月2日)

Sakawduean Paiboon : Assistant Professor, Saint Louis College, Thailand

タイ王国における看護師資格の種類、免許の更新、看護協会と看護協議会のそれぞれの役割、Advanced Practice Nurseのシステム、看護教育と教育機関について説明がなされた。また、Saint Louis Collegeの例を用いながら、看護教育の具体的なカリキュラムとその構成について、必要な単位数、評価方法などが示された。最後に、講師の専門である母性看護学分野の研究の例として、コンピュータを使用した助産教育法の効果について紹介された。

#### 2. 「タイ王国における認知症の治療と看護」(2008年11月5日)

Suwanna Anusanti : Associate Professor, Saint Louis College, Thailand

はじめに認知症の事例の紹介があり、その徴候、原因、タイプが解説された。続いて、タイ王国における認知症の発生率などの統計、スクリーニングの方法、予防法について説明がなされた。また、セントルイス大学の一部として機能しているケアセンターの理念や活動の実際についての紹介があり、行政的な面や宗教の差によってもたらされるケアの違いについても紹介された。

### II. 学内講師による研修

#### 1. 「SPSSを使って統計処理をする方法」(2008年8月18日) 柏木公一講師、水野正之講師

情報処理室にて、SPSS16.0Jを用いて統計処理を行う方法について、演習中心の講義がもたれた。アンケートの調査票を実際に使用して、データの入力から始まり、棒グラフなどの作り方、記述統計値の計算、t検定などの有意差検定などを含め、さまざまな例で演習を行った。

#### 2. 「最近の若者の心理と行動」(2008年9月18日) 鉦鹿健吉教授、松岡里枝子教授

若者の心理と行動について心理学および社会学的な説明と討論が行われた。盗難事件やストーカー行為と関連して、反社会的な行為に及ぶ心理状況について説明があり、秋葉原事件を例に、社会学的に「世間」を捉えた阿部の世間学を用いての分析が紹介された。若者にとっての「世間」が、彼らのアイデンティティとどのように関わるのか、また犯罪行為を引き起こす要因になるのかについて議論が交わされた。

#### 3. 「卒後教育の実際」(2009年2月27日) 久部洋子教授

本学の卒業生たちが、卒後教育において受けている教育内容について、看護部長であった経験をもとに、具体的な事例について説明があった。本学での教育内容や指導方法を検討するうえでも、実際の医療現場にて本学の卒業生がどのような研修をどのような形で受けているのか、などについて情報を得ることが重要であると認識するよい機会となった。

#### 4. 「5年間の本学での教育をふりかえって」(2009年3月26日) 西内清美講師

2004年度より5年間、多岐にわたる分野(看護理論、生活援助論、看護倫理、母性看護、論文講読、国際看護学・実習、卒論指導、野外生活など)にて教育・指導に携わってきた経験をとおして、それぞれの場面で、どのようなことが重要であったか、どのような意義があったか、などについて、具体的な事例・エピソードを交えながら説明がなされた。特に学生とのかかり合いを含め、「出会い」の意味が大きい、との指摘が印象的であった。

### Ⅲ. 自主グループでの研修

「共同研究についての報告と打ち合わせ」(2008年8月27日)

2006・2007年度に行われた3つの自主グループの概要とその成果についての報告があった。参加者から、授業の工夫や最近の学生の様子などについて意見が出された。また、授業で困難を感じている点についての話題提供があり、それに対して熱心に意見が寄せられた。継続的に共同研究を行うことについては見送られた。3年間にわたって行われた自主グループによる研修はこれをもって一端終結することとなった。

### Ⅳ. ランチョン・ミーティング

#### 1. 「せん妄のアセスメントとケア」(2008年8月21日) 綿貫成明准教授

せん妄の研究に取り組んだ経験と、看護師のアセスメントとケアの特徴について話された。また、NEECHAM Confusion Scale を翻訳したことから、その活用についても説明がなされた。

#### 2. 「科学研究費について」(2008年9月11日) 柏木公一講師

研究費の申請書類を具体的にどのように書くのか、研究費の使い方などで注意を必要とすることなどが話された。研究費に関する各種マニュアルや参考になるガイドブックも持参されて説明された。

#### 3. 「タイの精神科看護について」(2008年10月9日) Suwanna Anusanti : Associate Professor, Saint Louis College, Thailand

講師であるスワナ先生の自己紹介のあと、他の参加者9名の自己紹介およびスワナ先生への質問、提供された質問に対しスワナ先生がていねいに答えるという形でミーティングが進められた。日本とタイの精神科看護の違いを中心に話が展開した。

#### 4. 「薬物の問題と医療観察法について」(2008年11月13日) 田中留伊講師

「覚せい剤精神病患者への援助」、「医療観察法における鑑定入院病棟での看護の役割」などの研究テーマが紹介された。また、平成17年に施行された「医療観察法」について概要が紹介され、薬物依存症病棟や医療観察法病棟に勤務し治療に関わった経験から、効果的な看護介入について説明がなされた。

#### 5. 「医薬品の安全性の研究」(2008年12月11日) 竹村玲子教授

海外の医薬品の安全性情報を医療者向け、また一般向けに情報提供をした経験や、海外の主要な副作用のデータベースを紹介してきた経験が話された。また、安全性の情報がどのように国民に知らされるのか、そのシステムには国ごとに特徴があることも示された。

#### 6. 「Difficulty in speaking English」(2009年1月31日) David R. Evans 講師

英語を話すことを困難にしている要因、成功した経験、やる気を増大させる工夫などについて話し合われた。さらに、学生が求めている学習内容がいかなるものかについての話題も提供された。

#### 7. 「総合病院における精神科病棟の特性、および、看護学生のメンタルヘルスについて」

(2009年2月12日) 阿部由香講師

総合病院の中の精神科病棟での勤務経験から、単科精神科と比較した共通性と特異性について説明があった。また、精神看護学を担当していることから、学生からメンタルヘルスに関して相談を受けることが多く、その経験を踏まえ最近の学生の傾向や特徴についても説明があった。

#### 8. 「臨床経験を研究テーマにつなげて」(2009年3月12日) 小山智史助教

本学の研究課程部出身ということから、臨床経験と「内服薬・外用薬の与薬プロセスにおけるインシデント・アクシデントの発生状況と安全性の確保状況の分析」という研究課題のつながりについて説明がなされた。